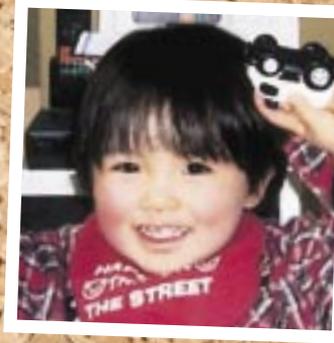


今月生まれのお友達をご紹介します

Happy Birthday



ふじい ゆきな
藤井 幸奈ちゃん
(仙養西)
☆親の願い ヨシ子はあちゃんみたいのパワフルで、たくましい女性になってね！(父母より)



かわい あきお
河相 明夫ちゃん
(仙養西)
☆親の願い いつまでもその笑顔を大切に。

平和を後世に

「地元の教材から平和・反戦を身近に感じてほしい」三和中学校1年生が「黒い雨」と「学童疎開」のゆかりの地を巡り、平和の大切さを学びました。

(講師：重松文宏さん・梅岡壽啓さん)



今年もたくさんのモリアオガエルが生まれそうです (古川)

「ここは決して立地はよくありませんが、高品質のものを作れば十分に市場で太刀打ちできます。いいものがほしい、いいものを贈りたいと考える人は日本全国にいます」と、インターネットでの販売も考えられているそうです。

また、露地栽培のほかにも、町内で初めての連棟ハウスの試みも。「加温栽培により、長い期間出荷でき、お客さんのニーズにも応えることができます」

新しい取り組みにもチャレンジし続ける原さん。今年も、ピオーネの季節には原観光農園にお客さんの笑顔が輝きそうです。

「見る人が驚く、その大きさと色つきの良さ。『ピオーネは黒いほど甘い。神石の日の寒暖の差が大きい気候は実を甘くしてくれます。肥料の量や摘果のバランスも重要です。一房40粒ほどが大きく成長した時の全体の形を考えると、味だけでなく、形へのこだわりも話していただきます」と、味だけでなく、

また、学ぶことも多いです」

ピオーネの生産・販売、観光農園の経営をされている原さん。始まりは15年前、父・義博さんが植えた、たった2本の苗木。勤めていた銀行を辞め、後を継ぎ、今では8,000㎡、年間15tを生産されています。

百彩館での販売やFAX注文への対応をはじめ、観光農園では時間制限なしでピオーネが味わえるとの評判が口コミで広がり、ピーク時には1日に200人も人が遠く倉敷や東広島から訪れます。「頂いた絵手紙には、『原農園 日本一』と書いてありました。とてもうれしかったです。直接お客さんの声が聞けることは喜びであり、

神石高原町の一番星 No.15



城山自治振興会の原 雷蔵さん